



中国支部連絡協議会便り

全国で順次開催されているスキルアップ研修会(特定非営利活動法人・日本防災士会主催)の広島会場での「防災緊急活動指導者養成講座」が3月16日、広島市YMCA国際センターで行われた。松尾好将副理事長、寺尾芳孝監事、幸坂美彦山口県支部事務局長を講師に広島県、岡山県、山口県、鳥根県から防災士70名が参加し、充実した研修となった。

地域・学校の防災対策を学ぶ 広島・岡山・山口・鳥根県から参加

防災士の役割の重要性を確認



講義終了後には、参加者から熱心な質問や感想も寄せられた

「防災のスキルをもっとアップしたい」「防災講演の方法も学びたい」……多くの要望に応える本部主催による研修会には、中国各県から第一線で活動する防災士が意気揚々と参加した。午後1時から始まった研修会では、松尾好将副理事長と稲上恵吾中国地方支部連絡協議会会長が開会の挨拶を。研修として、寺尾芳孝監事が「身近な防災対策」「高齢者における防災対策」について講義した。同監事は「地域の特性を知る」「災害リスクを特定する」「災害を知る」「災害に備える」観点から展開。ハザード

マップで「危険」を知るのと地域との過去の災害を知るの重要性を語った。また、高齢者施設には多種多様な施設があることを念頭に、的確な支援が望まれること。さらに、社会福祉施設では定期的な防災訓練や研修の実施が必要であり、そこに防災士の役割があると強調した。続く研修では、松尾副理事長が講演の方法にも触れながら、主に「地域防災と自主防災会のあり方」を数々の事例を通して講義。



熱く語る幸坂講師

地域の防災として取り組む基本は、最悪をイメージして計画を立て、マニュアルを作って訓練を重ねてこそ安全が高まる、と語った。研修3では「学校の防災体制・防災教育」について幸坂山口県支部事務局長が担当。これまでの現場で様々な課題を乗り越えながら取り組んできた活動を紹介。防災教育は教員に対する教育、事務職員に対する教育、児童・生徒に対する教育、地域に対する教育のほか、保護者に対する教育が必要であることを指摘。避難訓練でも、自分の「自衛」が大切である、と熱く語った。同事務局長は「すべてで最も大事なのは、すべてで人と人のつながり」であると講義を結んだ。



真剣な参加メンバー

参加者の声

広島県広島市

石橋 政道

講師の方々熱意あふれる講義から、防災士の活動の大切さが伝わってきました。なかでも、幸坂講師が学校の現場をふまえて話された事例は、とてもわかりやすく、説得力あるものだと思います。参加してよかったと思っています。

山口県宇部市

林由美子

広島でのスキルアップ研修に参加してたくさんの方々と学びました。講師が準備された資料やインターネットの活用方法や講演での話し方など、どれも今後私たちが講師として話す時に役立つものでした。さらに防災士としてスキルアップしていきたいと思っています。



松尾副理事長の挨拶